

ふれあいミーティングを 7団体と実施

～町長とまちの課題について意見交換～

「町民の参加と協働のまちづくり」を進めるため、町民と町長が直接対話し、まちづくりの課題などを共有することを目的に「町政懇談会」を毎年開いています。

今年度は10月から12月にかけて、町内会や事業所、町内各種団体等の希望に応じて、町長が皆さんの活動の場へ出向いて懇談する形に開催方法を変更し、7団体、127人にご参加いただきました。

ここでは、参加者から寄せられたご意見やご要望を抜粋、要約してご紹介します。各意見に対する回答については、現在までの情勢の変化などを反映させた内容に手直ししていますので、ご了承ください。

町政への心がけ

Q 町長が、町のため、町民のために心がけていることは何か。

A 1期目から一貫して「地域の自立と豊かな暮らし」をスローガンにしている。自立とは誰かのせいにしたり、何かのせいにせずに、自分の力でできることは精一杯やるということであるが、その一方で助け合いも必要。豊かな暮らしを実現させるには、経済をしつかりさせることが大事である。4期目は、「活力と安心」を掲げ、産業振興をしつかりと行い、広尾町を生き活きた町にしたい。

核の街

Q 核のゴミの処分地に道内の2町村が名乗り出たが、町長の考えを聞きたい。

A 広尾町としては反対である。原子力発電による恩恵を受けている以上、どこかがやらなくてはならないが、国策であるので国主導で責任を持って進めるべきであり、自治体に手を挙げさせるべきではない。広尾町も含めて海岸線の自治

体は適地になっているところが多いが、本町は活断層もあり津波被害の恐れがあるので、処分地としては難しいと考えている。

音調津避難施設

Q 音調津地区は津波災害の際、標高が高いスキー場跡地へ避難することとしているが、現状では避難先に建物がない。冬に災害が起こった時に備えて、避難施設を一刻も早くつくってほしい。

また、避難場所への道路は狭く、夜はガードレールがないと避難の際に危険である。

A 津波が発生した時に冬期でも避難できる施設は必要と考えている。音調津地区の住民全員が入る大きな施設は難しいが、早急に建設できるよう検討を進めている。また、道路の拡幅は難しいが、道幅を示すポールの設置など対策を講じる。

道の駅建設

Q 広尾町に道の駅をつくる計画はあるか。

A 第6次まちづくり計画策定の際にも道の駅建



音調津の避難施設建設は喫緊の課題

設を求める声があったが、事業費が多額なため困難であるとの結論となった。しかし、広尾町の魅力を紹介する施設の建設を望む声は多く、小規模の「観光交流施設」をつくる予定で計画に搭載している。

出産祝金

Q 十勝管内では出産祝金を40万円支給している自治体もある。人口増のため、出産祝金や結婚祝金などの制度を始めてはどうか。

A 出産祝金は町の厳しい財政状況もあり、なかなか実施できなかったが、社会情勢に合わせた新たな政策

として来年度から実施する考え。支給額は第1子、第2子が5万円、第3子以降は10万円。

役場からの文書

Q 役場からの文書は字が小さく、難しいものが多い。高齢者にも理解できるように字が大きく、短くてわかりやすい内容としてほしい。また、定時放送はカタカナ語や専門用語を使わず、わかりやすい言葉で伝えてほしい。

A 定時放送の内容は事前確認し、言葉づかいなどをチェックしている。文書や町広報、定時放送など町民へ発信する情報はわかりやすいものにするよう努める。

ボランティア活動

Q ボランティアの担い手も高齢化しており、活動が大変になってきている。役場職員もボランティア活動に参加してもらえないか。

A 消防団員も担い手が減っており、職員採用の際に声をかけて採用後に団員になってもらったこともある。ボランティアについても、今後検討したい。

JRバス日勝線

Q ほとんど乗客がない状況だが、今後も路線を維持するのか。費用に見合わなければ廃止してもいいのではないのか。コミュニティバスなどの代替手段は考えられないのか。一度住民にアンケートを取ってみるべきでは。

A えりも町、鹿野と広尾町を結ぶJRバス日勝線は、両町が共同して運行委託している。鹿野から広尾高校に通学している生徒がいるため、すぐに運行を止めるといふ考えはないが、高校への通学手段について今後検討する必要がある。今後、地域交通について町民も含めて検討する会議を立ち上げる予定。

買い物支援

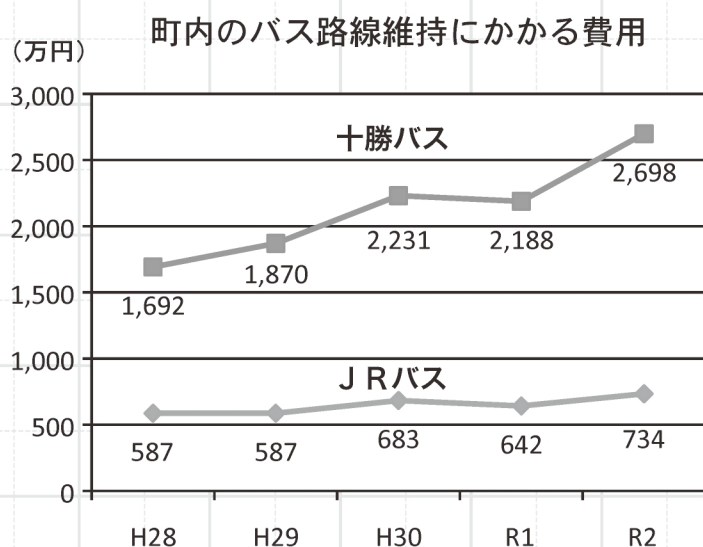
Q 買い物のためのバス運行を検討してほしい。他町村で運行しているコミュニティバスは、だんだん乗らなくなると聞いています。現在は家の前まで来てくれる予約制バスが主流であり、その方式で運行できるか今後検討していく。

敬老会



敬老会の今後のあり方を検討

バス路線維持費用は増加の一途 ～利用者減少と運行費用増加が要因～



<開催結果>

開催日	実施団体	参加人数
10/13 (火)	広尾中学校3年生	50人
10/17 (土)	丸山7丁目シルバークラブ長寿会	13人
10/24 (土)	ボランティアグループたんぽぽの会	14人
10/31 (土)	音調津町内会	15人
11/ 5 (木)	野塚老人クラブ明老会	11人
12/12 (土)	紋別老人クラブ 並木高砂会	11人 13人
実施団体 7団体・参加者数 127人		